

大学生のニュース情報収集の特徴

Tendency of university student's news acquisition

渡部雅男 (熊本大学文学部)

小畑喜一 (青山学院大学社会情報学研究科)

Masao Watabe (Kumamoto University)

Kiichi Obata (Aoyama Gakuin University)

要旨：

東京・神奈川及び熊本の大学生に対してアンケート調査を行い、ニュース情報収集の特徴について分析した。その結果、総覧性の高いと言われる新聞については、学生もその様に思っているが、経済的理由により自ら購読する数はかなり少ない。この総覧性について、テレビにもあると考える学生が多く見受けられる。しかし、テレビによるニュース情報の収集は、たまたまつけているテレビから何気なく行っている傾向があることが分かった。また、ニュース情報の収集の傾向は、学生が、首都圏に住むか地方圏に住むか、男性は女性かでも異なることも分かった。

Abstract：

The questionnaire was performed to college students of Tokyo, Kanagawa, and Kumamoto. We have analyzed about their characteristics of news information gathering. As a result, students consider that newspaper has a conspectus nature as it is said. However, there are quite few numbers who buy newspaper according to an economic reason. They consider television has the conspectus nature, too. However, we found that they collect news information from television turned on by chance. The tendency of collection of news information is different whether they are living in the metropolitan area or the district, also whether they are men or women.

1. 研究の進め方

大学生を対象に、2012年6月～8月にかけてアンケート調査を行った。アンケートに解答があった大学生の所属は、熊本県(文学部)131人、神奈川県(社会情報学部)25人、東京都(工学部第二部)14人の計170人である。

アンケート中で、知っているニュースにチェックマークをつけてもらい、どれくらいそのアンケート回答者が総覧性を持ってニュースを収集しているかを確認した。アンケートに掲載したニュースは、読売新聞ヨミダス歴史館ニュース月録より2011年12月から2012年5月の政治・国際・経済・社会に関する記事を15件選んだ。

2. 学生が社会に持つ興味

図1は、学生の間で起こっていることへの興味の度合いごとに4つのパネルを表示している。各パネルの上についている数字が興味の度合いを示す。各数字について、0：全く無い。1：あまり無い。2：少しある。3：大いにある、を示している。横軸にはメディアから取得しているニュースの数を取っている。各パネルの横軸方向の右に行くほど、知っているニュースの数が多くなる。また、縦軸は知っているニュース数ごとの学生の人数を示している。この4つのパネルから世間で起こっていることに対する興味が強い学生ほど、知っているニュース数が多いことが分かる。この事実意外性はない。

しかし、学生はどのようなカテゴリーのニュースに興味を持っているのだろうか。図2は横軸に学生が

興味を持つニュースのカテゴリーを示し、縦軸には興味を持っていると申告された申告数を示している。一人の学生が複数のカテゴリーに興味を持つとしたものがあるため、学生数にはしていない。ここから、社会問題に対する興味が強いこと、政治よりも芸能やスポーツのカテゴリーのニュースに興味を持っていることが分かる。

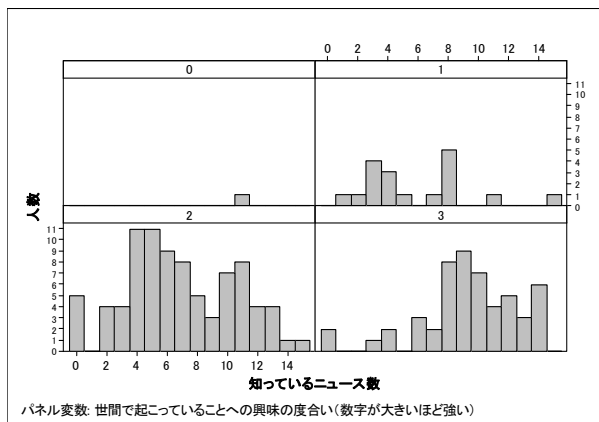


図 1 知っているニュース数と世間で起こっていることへの興味の度合いの関係

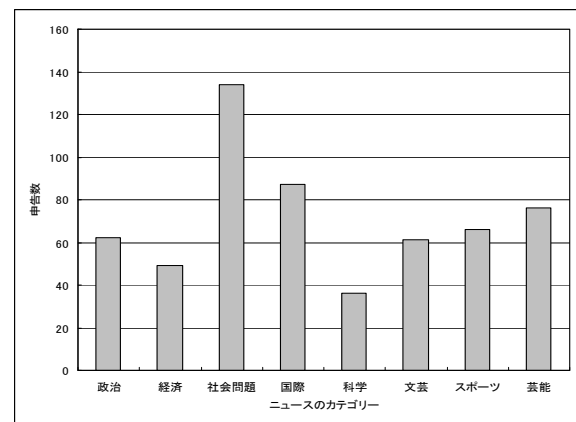


図 2 学生はどのようなニュースカテゴリーに興味を持っているのか

では、学生はどのようなメディアからニュースを取得しているのだろうか。学生に対して行ったアンケート中で、各メディアを利用する度合いの強さを表現するために、その度合いを「利用強度」として次のように数値化した。テレビを例にとると、「どのようなタイミングでテレビのニュースを見ますか？」⇒ 毎日：3、時々：2、話題になったことを知りたい時：1、ほとんど見ない：0とした。新聞・インターネット・ロコミも同様。新聞については、「新聞に目を通す場合、どのページに目を通しますか？」：□全面に目を通す、□特定のページに目を通す、□テレビ番組欄のみに目を通す、□新聞はほとんど読まない」の質問項目も設けた。その結果、アンケート対象の全学生のメディアごとの強度合計値は、テレビ：370、インターネット：350、ロコミ：285、新聞：128であり、テレビとインターネットが同じくらいに強く、新聞はそれらの半分以下であることが分かる。つまり、学生はテレビとインターネットに同程度依存し、新聞への依存は小さい。

3. テレビと新聞の利用実態

学生が依存しているテレビとあまり依存していない新聞について、その所持、購入状況を調べた。その結果、テレビについては、所持している学生 161 人に対して、所持していない学生 9 人となった。ほとんどの学生がテレビを持っている。

一方、新聞の購入については、新聞を取っていない学生：108 人、家庭で新聞を取っている学生：56 人、自分で新聞を取っている学生：6 人であった。自ら新聞を取っている学生はかなり少ない。

新聞を取らない理由を調べた。経済的理由：65 人、読む暇がないなど：28 人、ネットやテレビで十分と思っているから：15 人、ゴミ出しが面倒：6 人、じゃまになる：3 人、その他：24 人であった。新聞を取ることはお金がかかると同時に、読む時間もあまりなく、テレビやネットを見れば十分と思えると分析できる。「その他」の理由には、「読まなければならないという強制感」、「読むのが遅いので読みきれない」、「ためてしまうと思うから」、「値段の割に活用できない」、「大学の図書館で読める」などがあげられている。

4. 学生は各メディアに何を期待するのか

学生は各メディアに何を期待しているのだろうか。アンケートで、各メディアの良い点は何かを聞いたところ、図3のような結果となった。ここで、横軸は良いと思う理由区分を示している。区分名を略しているが、それぞれ、「全体万遍」：世間で起きていること全体が万遍なく分かる、「特定詳細」：特定のニュースについて詳細を知ることができる、「特定背景」：特定のニュースについてそうなった背景を知ることができる、「特定意見」：特定のニュースについて解説者の意見を知ることができる、を示す。

図3から、新聞やテレビについては、「全体万遍」が多く、世の中で起きていることを総論的に知ることの良さを感じているようだ。橋元(2011)と栗原(2008)は、新聞は総論性が高いと言っているが、このことが裏付けられる。一方、インターネットについては、総論性よりも、特定のニュースの詳細を知ることが出来るメリットが高くなっている。ネット検索により、より深く、またいろいろな視点から知ることが出来ると思っていると考えられる。また、ネットについては「特定意見」を理由に挙げている学生が少ない。ネット上に上げられる意見の信頼性に疑問を持っている学生が多いのではないかと。

図3から、テレビに対する総論性を学生は期待していることが分かった。それでは、学生はテレビをどの様に見ているのだろうか。図4は東京・神奈川の学生と熊本の学生に分けて、テレビの見方を区分している。熊本の学生に特徴的なのは、「たまたまついているテレビを何となく見る」が飛びぬけて多いことである。熊本の学生は、テレビを何となくつけて見ている中からニュースを取得しているのではないかと。

一方、東京・神奈川の学生は、「ニュースは必ず見る」としている学生が、「たまたまついているテレビを何となく見る」に比べてやや多い。首都圏と地方の違いが現れていると思われる。熊本日日新聞社の柿山(2013)は、「私は長い間、社で人事を担当してきた。当然大卒の採用試験には数多く立ち会っている。・・・応えに窮した受験者に「新聞は読んでいますか」「購読紙は何新聞ですか」と問うと、大抵あいまいな返事しか返ってこない。そんな学生が以前からではあるが増えている。残念ながらその傾向は地方の学生に目立つ。」と述べている。このように、図4は、首都圏の学生と地方の学生に差があることが裏付けられるデータだと言える。

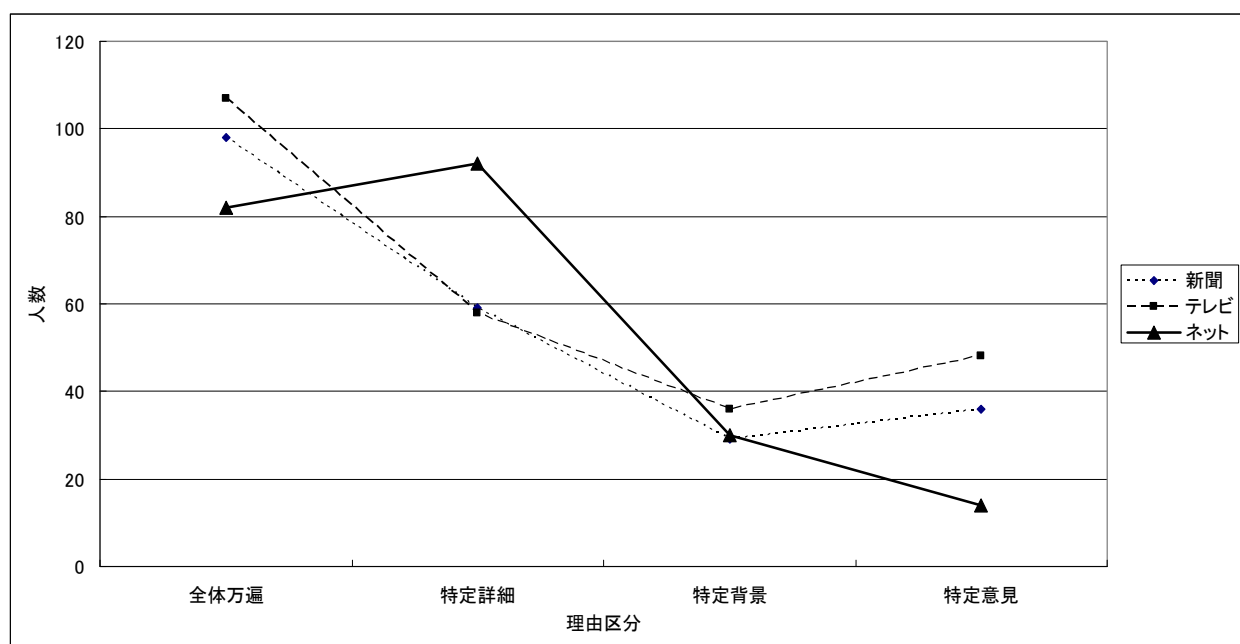


図3 各メディアについて学生はどの様なところが良いと思っているのか

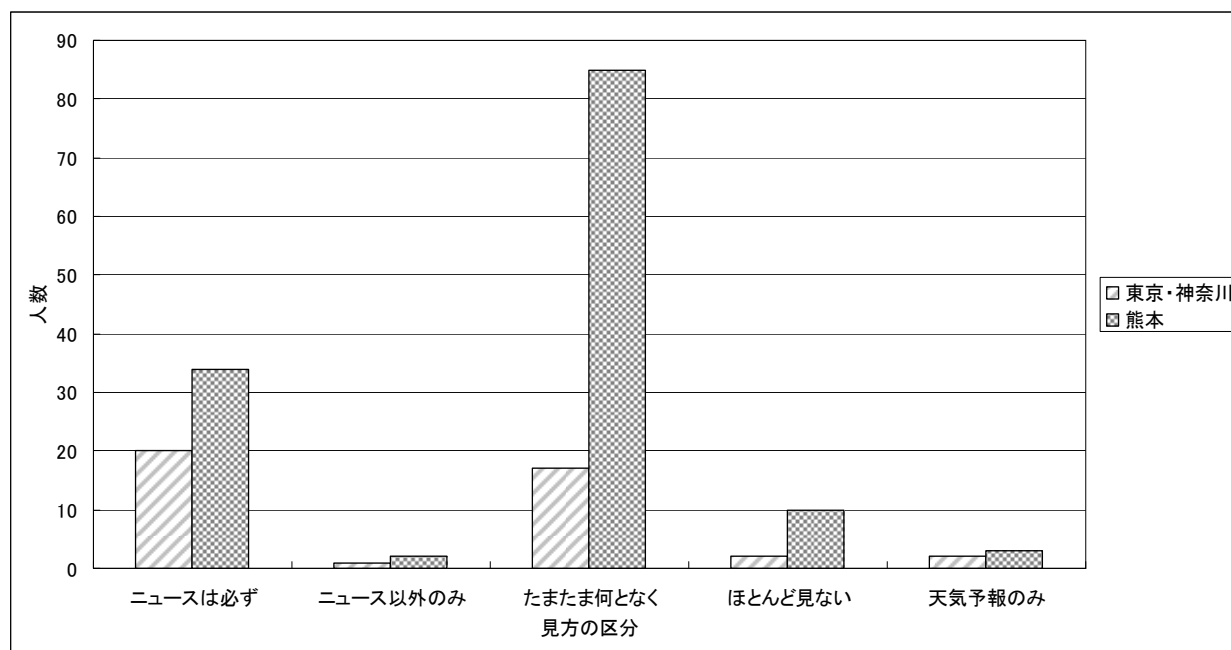


図4 学生はテレビをどのように見ているのか（東京・神奈川と熊本の比較）

5. 結論

上記の分析から、下記のことが分かった。

- 学生は社会問題に対する興味が飛びぬけて強い。政治よりも、芸能・スポーツのニュースに興味を持っている。
- 自ら新聞を取っている学生はかなり少ない。新聞を取らないのは経済的理由が多い。
- 新聞やテレビについては、世の中で起こっていることを総覧的に知ることの良さを感じている。先行研究の「新聞は総覧性が高い」と言われていることが裏付けられるが、テレビも同様だ。
- 学生は、インターネットについて、総覧性よりも、特定のニュースの詳細を知ることが出来ると思っている反面、インターネットに上げられる意見の信頼性に疑問を持っている。
- 学生は「たまたまついてるテレビを何となく見る」ことによって、ニュースを取り込んでいる。
- 首都圏の学生と地方圏の学生にテレビの見方に差がある。

本予稿には、紙面の都合で記載できないが、知っているニュース数について、首都圏と熊本では首都圏の方が多く、男性と女性では男性の方が多い傾向が出た。（但し、統計的有意性の検証は行っていない。また、東京の学生は夜間部の学生であり、勤労学生が多いと思われる。）口頭発表で内容を説明すると同時に、その理由の調査を今後の課題としたい。

参考文献

- [1]橋元良明「メディアと日本人-変わりゆく日常」 岩波新書 2011年
- [2]栗原信征「若者の”新聞離れ”と新聞広告の低迷」 上武大学経営情報学部紀要第31号 2008年3月 pp.61-71
- [3]柿山武志「新聞は原石磨く玉手箱」 武夫原 第21号 2013年3月15日 p.5